



社員、お客さまの安全を守るための要求実現！

2023年1月に行ったお客さまが乗車している営業列車に設備社員を添乗させて、氷柱落とし作業を行いながら運転させた事象について過去に行ったことがないこと、多くの医科大と問題がある可能性から2022年度申18号を申し入れました。8月29日に団体交渉を行い、会社の考えを質しました。

1. 営業列車を使用して氷柱落とし作業を行った経緯、及び理由を明らかにすること。

回答：臨時回送電車列車運転士からの氷柱情報をもとに、現地確認のため電力係員の添乗を行った。氷柱の状況確認後、関係箇所と打ち合わせ、その場で氷柱落としを行ったものである。

- ・25、26日共に氷柱除去の計画はあった。26日は前日に徹底的に除去後の計画であった。
- ・回送列車乗務員申告では運転に支障がないという認識であり、現場判断により一応行った。

2. 安全確認列車に電力社員が添乗しなかった理由を明らかにすること。

回答：前日に氷柱落としを行っており、不短絡防止のために臨時回送列車を運転したものである。

- ・前日に氷柱除去を実施しており、26日除去した全ての氷柱が運転に支障があった訳ではない。時間経過で氷柱が成長するかもしれないので除去した。

3. 営業列車を使用した氷柱落とし作業において、列車の安全が確保できると判断した根拠を明らかにすること。

回答：臨時回送電車列車運転士からの氷柱情報をもとに、雪害対策本部にて総合的に運転可能と判断したものである。

- ・写真を含めて判断した。0か100かで判断していない。営業列車でやみくもには考えていない。リスクを見て列車を停めて実施することはある。
- ・アーク情報もなく架線切断はなかった。

4. 今事象における作業員の安全確保、及び連絡 保安体制を明らかにすること。

回答：関係者間で打合せを行い、作業員の安全確保を行ったうえで実施したものである。

- ・基本的には列車抑止での作業となる。P社とのやり取りは問題はない。運転士への直接作業指示はない。速度規制区間以外での除去作業はない。

5. 氷柱の張り出しを確認する方法、及び氷柱落とし作業を行う方法を明らかにすること。

回答：定期的な列車巡視や乗務員からの申告などにより確認し、作業を行っているところである。

- ・定期的な氷柱の確認は行っている。写真や映像があるので関係箇所を含めての判断となる。
- ・保護具着用、絶縁により、き電停止はしない。LED使用し見張り員配置で線閉は必要ない。

6. 営業列車を使用した氷柱落とし作業は行わないこと。

回答：状況に応じて氷柱落としを行っていく考えである。

- ・営業列車でむりくり行うことはない。今後営業列車では実施しないことを確認する。